

絶景の道白崎 【白い岬と青い海】自然体感

平成28年度作成 ゆら語り部クラブ



日本のエーゲ海「白崎」について

- 昭和33年3月 県立白崎自然公園に指定されました。
- 岩石は古生代ペルム紀の石灰岩で、今から2億5000万年前のものといわれています。海ユリ、フズリナ（紡錘虫＝米粒状）などの化石を含んでいます。
- 展望台から、四国・淡路島がよく見える日があります。近くの島、海鹿島・鹿尾菜島（海猫の繁殖地）がよく見えます。
- 【白崎海洋公園】は昭和42年頃（残務整理47年度）まで日本セメントというセメント会社が石灰岩の採掘をしていました。上質の白セメントの原料でした。
その後、閉山された跡地に、ふるさと創生事業1億円を元に、何倍もの金額を投資して平成8年にオープンしたものです。
さらにその後、「日本の夕日百選」、「日本の渚百選」に、平成22年4月には、読売新聞の「平成百景」（19位）に選ばれ、最近は「道の駅」にも指定されています。
- ◎【白い岬と青い海】は撮影地としても最高で、和歌山県はもちろん、日本でも有数のロケ地であると地元の私は思っています。また、平成27年9月には、大引海岸から白崎海洋公園までのコースが、【新日本歩く道紀行100選・絶景の道】にも認定されました。



○シェルズギャラリー（貝と化石の展示）

貝博士・神田耕一郎氏が集めた貝約1,000種類・5,000個と化石が、パークセンター2階に展示されていましたが、平成29年8月、神谷の旧白崎中学校2階の「ふるさと資料館」に移されました。

そこには、歴史資料・民俗資料その他、色々のものが展示されています。

○白崎万葉公園

道の側の小さな公園に、2つの歌碑が建っています。一つは万葉歌碑で、そこから名前が付けられています。

飛鳥時代の大宝元年（701年）、持統天皇（太上天皇＝元天皇）と孫の文武天皇の一行が船で白浜の牟婁の湯（白浜町 崎の湯）へ行かれる途中に詠まれた歌です。

白崎は幸くありまて 大船に 真舵しじぬき また帰り見む

（白崎よ無事で待っていておくれ、大船に梶を揃えてまた帰ってくるから）



◇平成の万葉歌（宮中歌会始めの選者で歌人の、岡野弘彦先生の歌）

海原はなぎしづまりて白崎の 神のいはほにあさひてりくる

（海原は風が静まっていて、白崎の神の巖である立巖に朝日が照り輝いて来る）

○野生水仙群落地（番所の鼻）

白崎青少年自然の家の上の方に、番所の鼻という場所があり、野生水仙の群落地があります。1月～2月に八重の水仙の花が咲き、やさしい香りが匂います。

他にも、途中の海岸線と、断酒道場下の斜面に、汀まで沢山の水仙が咲いています。



○人間魚雷回天基地跡（白崎海洋公園入口トンネル）…文化財看板参照